

令和3年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる
「プロジェクト型」の共同研究 研究報告書

令和4年8月8日現在

研究課題名	昭和のロシア： 日ソ文化外交と戦後日本のロシア観形成に関する研究				
申請者 (代表者)	氏名		所属機関・職		
	巽 由樹子		東京外国語大学大学院総合国際学研究院 准教授		
研究構成員		氏名	所属機関・職	専門分野	役割分担
	1	秋草 俊一郎	日本大学大学院総合社会 情報研究科・准教授	比較文学・翻 訳研究	文学分野の分析
	2	神長 英輔	国学院大学文学部・准教 授	ロシア近現代 史	うたごえ運動等の 大衆音楽の分析
	3	斎藤 慶子	日本学術振興会・特別研 究員	日露バレエ交 流史	バレエ分野の分析
	4	左近 幸村	新潟大学経済学部・准教 授	ロシア近代 史・経済史	日ソ貿易・経済分 野の分析
	5	半谷 史郎	愛知県立大学外国語学 部・教授	日ソ文化交流 史	音楽分野・社会動 向の分析
	6	安達 大輔	北海道大学スラブ・ユー ラシア研究センター・准 教授	ロシア文学、 メディア論	アドバイザー

研究成果の概要

本研究グループは、春以降に準備を重ね、2021年10月にロシア史研究会年次大会にて「昭和のロシア：戦後の日ソ文化外交の歴史的分析に向けて」と題したパネル報告を実施し、半谷、斎藤、巽が報告した。12月にはこのパネル報告の事後検討のために研究構成員全員で対面ミーティングの機会を持ち、ソ連の対日外交によって昭和期の日本でいかにロシア・ソ連文化が権威化していったかを諸芸術分野から具体的に明らかにし、論文集を刊行する計画をまとめた。日本大学市ヶ谷キャンパスで行われたミーティングに各地からメンバーが集まるに際して、本助成による旅費の支給に大いに助けられた。2022年3月には、共同プログラムの成果報告としてオンライン研究報告会を実施し、半谷と巽が口頭発表した。本助成により、メンバーの一部が夏季に札幌へ出張し、北大図書館で文献収集することができた。他方、冬季に出張を予定していたメンバーは、COVID-19の再拡大のために残念ながらキャンセルせざるをえなかった。これにより、支給された予算が計画通りに執行できなかったことに反省が残る。とはいえ、不透明な情勢下で研究グループの活動を継続する気力を維持するにあたって、本助成の支給があったことはとても大きな励みだった。議論を重ねるために不可欠の支援をいただいたことに、あらためて深く感謝する。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

【学会発表】

1. 神長英輔「ソ連メディアに見る「北洋」：1930年代のソ連における「日本」の構築」ロシア史研究会大会（オンライン）、自由論題、2021年10月23日
2. 「昭和のロシア：戦後の日ソ文化外交の歴史的分析に向けて」ロシア史研究会大会（オンライン）、パネル、2021年10月24日
半谷史郎「ソ連製ワクチンの緊急輸入（1961年6月）：ポリオ生ワク闘争を日ソ関係史に位置づける」
斎藤慶子「日本国際芸術協会の対ソ連文化交流活動（1957-1964）」
巽由樹子「文化外交、文化冷戦、文化社会学—研究動向について」
3. 2021年度SRC共同利用・共同研究拠点公募研究（プロジェクト型）セミナー「昭和のロシア：日ソ文化外交と戦後日本のロシア観形成に関する研究」2022年3月29日
半谷史郎「ソ連の生ワクチンが日本に残したもの」
巽由樹子「1960-80年代日本へのソ連美術紹介—三越と西武の役割を通して」

【図書】

1. 長塚英雄編『新・日露異色の群像 30』生活ジャーナル、2021年6月（分担執筆：神長英輔「高碓達之助（1885-1964）：日中・日ソ関係の改善に力を尽くした「肩書のない」政治家」189-210頁（謝辞なし）；斎藤慶子「林広吉（1898-1971）：日露バレエ交流の曙」349-365頁（謝辞あり））
2. Morrison, S. A. （赤尾雄人監訳，加藤裕理，斎藤慶子訳）『ポリシヨイ秘史：帝政期から現代までのロシア・バレエ』白水社 2021年4月（謝辞なし）

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

2022年度の科研費（基盤B）応募は不採択となった。2023年度に再応募の予定である。

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。